

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－17

学校名・団体名	石巻市立釜小学校
HPアドレス	http://www.city.ishinomaki.lg.jp/school/20300600/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	石巻の未来をつくる力を育む教育活動の取組

〈活動・研究の意義、目的〉

本校では、平成24年度より「復興教育」を掲げ、「学校の復興なくして地域の復興なし」のスローガンの下、教育活動の充実を通して「精神復興」「教育環境復興」「地域貢献」の三つを基本の柱に、それらの具現に力を注いできた。震災を乗り越え、たくましく生きる将来の地域復興を担う人材育成を目指し、「未来をつくる力を育む」をテーマに、コミュニケーション力を身に付けることを実践の中核とした校内研究を進めることとした。具体的には、「確かな学力」「命を守る技術」「夢や希望」「思いやりの心」「基本的な生活習慣及び心のケア」の五つの力を醸成するための教職員プロジェクトチームを編成して、所属するプロジェクトにおいて教職員間の交流を深め、実践を重ねている。そこには、教職員と児童、そして保護者や地域が一体となって真摯に取り組む「復興教育」の姿が垣間見られた。小中連携、小高連携、地域連携も含めた一つ一つの取組は、児童の更なる「生きる力」の育成につながっていくものと考えている。

平成27年度 校内研究の成果と課題

石巻市立釜小学校
教諭 藤坂 雄一

1 所属校における校内研究の概要

(1) 研究主題及び副題, 目指す児童像

「石巻の未来をつくる力」を育む教育活動の取組
 — コミュニケーション力^{II}を生かし, 学びを交流する場の工夫を通して — (第3年次/3年計画)

(2) 研究目標

各教科・領域において志教育の3視点を意識して教育活動を展開し, 実践を積み重ねていくことで, 石巻の未来をつくる力を育む教育活動のあり方を探る。

(3) 研究の視点

[視点1] 志教育の3つの視点「かかわる/もとめる/はたす」を意識した単元構想の工夫

[視点2] 人との関わりの中で思考力・判断力・表現力を高める学習活動の工夫

(4) 研究内容及び今年度の取組

▽昨年度までの研究を継続しながら, さらに今年度は宮城県教育委員会指定志教育支援事業を受け, 石巻市立青葉中学校, 宮城県石巻西高等学校, 宮城県東松島高等学校と連携して「志教育」の実践交流を推進していく。12月には, 授業提案を含めた実践発表会を開催する。

▽各教科・領域の実践を「かかわる/もとめる/はたす」の3視点で見直ししながら, 志教育のカリキュラム作成を行う。

▽授業研究会を通して, 指導法改善と単元構想を検討していく。

(5) 研究方法

▽指導主事訪問や実践研究会の機会を活用し, それぞれの学年部で2回以上の授業研究会を実施する。

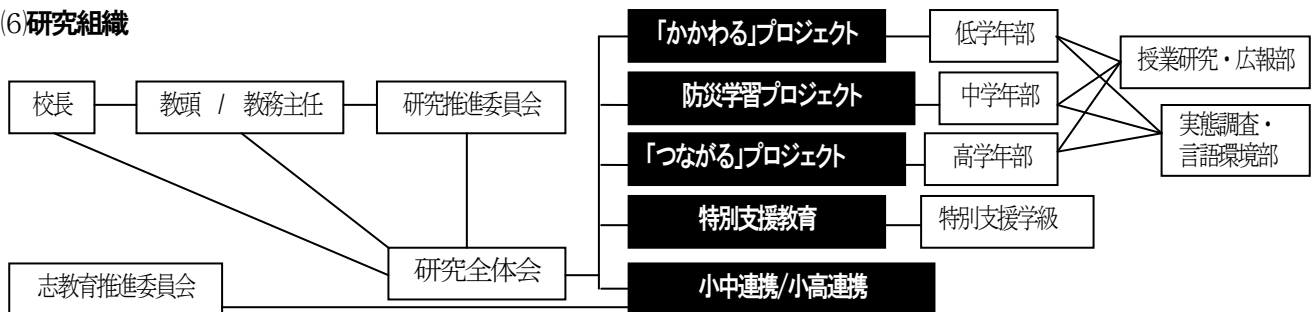
▽「身に付けさせたい力」を学年ごとに選択・吟味する。さらに, 児童の実態を踏まえて達成可能なゴールの姿を設定し, 学年部ごとに取り組む内容を計画する。

▽児童の意識調査を実施する。実態を踏まえ, 「身に付けさせたい力」を意識した実践を構想する。

▽志教育に関して, 関係諸機関や地域の人材と連携しながら実践していく。

▽文献研究, 先進校視察, 研究会等への参加を積極的に行い, 情報を共有する。

(6) 研究組織



☆小中連携及び小高連携について

▽日常的な連絡や情報交換を行う情報連携, 学校行事の相互参加や中学生によるワークショップ等を行う行動連携, また家庭や地域とも連携して「目指す児童・生徒像」の実現を図る目標連携を小中連携の取組の重点としている。

▽今年度は, 連携校の石巻西高等学校と東松島高等学校の高校生によるワークショップも実施する。

2 校内研究の成果と課題

プロジェクト	成果と課題
「かかわる」	<p>○1年生と2年生での縦割り活動による交流や地域の方々やボランティアの方々との交流など, たくさんの交流実践を開発し, 事例を累積することができた。児童が積極的に交流しようとする姿が見られた。同時に, 交流場面の設定は児童の学習意欲の喚起にもつながった。</p> <p>○人と関わることの楽しさを児童は体験的に知ることにより, さらに交流したいという思いを持つようになっていた。さらに交流実践を開発しながら, 「身に付けさせたい力」を明確にして交流の質を高める工夫をしていきたい。</p> <p>●生活科における配当時間外の内容を扱っていたため, 「かかわる」を意識した弾力的なカリキュラムを作成する必要がある。</p>
防災学習	<p>○発達段階に応じた防災対応能力の育成を図るために, 防災教育カリキュラムを作成し, 提案することができた。3年生は「自分の身を守る知識」について1年生に紹介するという場を設定することによって, 理解を深めることにつながった。4年生は「共助」について考え, 調べたことを「防災ハンドブック」の作成に活かしていた。「防災ハンドブック」は姉妹都市である茨城県ひたちなか市の小学校に送ることを想定しており, 相手意識・目的意識を持ちながら発信することを契機に, 学びが深まっている児童の様子が見られた。</p> <p>○消防署や松島野外活動センターなどいろいろな機関と連携しながら, カリキュラムを作成することができた。</p>

	<p>多様な体験学習を通して、「防災」とは何かを考える児童の姿が見られた。</p> <p>●時数を中心としたカリキュラムの再編成と、副読本「未来をつなぐ」等を活用した防災タイム（業前活動）の内容をさらに検討していく必要がある。</p>
「つながる」	<p>○みやぎの先人集「未来への架け橋」を中心とする実践提案（今年度は、「川村孫兵衛重吉」「内海五郎兵衛」「フランク安田」「高橋英吉」を国語科及び道徳の時間で実践した）を行うことができた。さらに、他教科との関連や石巻にゆかりのある人物の教材開発を進めていく。実践を通して、地域人材の生き方や考え方を学び、自己の生き方を振り返る契機となった。</p> <p>○身近な先輩との交流は中学校生活に対する不安をやわらげることにつながった。様々な交流を通して、自身の未来像への指針を持つ児童が増えてきた。</p> <p>●児童に将来の夢や希望を持たせるために、社会で活躍している人材を講師として招聘し話を聴く機会を設けていくためには、講師の選定が大切である。地域人材リストの作成を行い、実践を累積していく。</p>
特別支援教育	<p>○中学校の支援学級と4月から継続して取り組み、ゲームなどを通して関係づくりを行うことができた。</p> <p>○中学生から提供された資料は、中学校生活や共同実習所についての理解を深めることにつながった。9年間を見通した学びの連続性を意識した交流を開発することができた。</p> <p>●学校間や外部団体（「青い鳥の会」など）との日程調整・内容調整が難しかった。児童の実態に応じて、内容を見直していく必要がある。</p>
小中連携/ 小高連携	<p>○学校行事における交流や、中学生が本校6年生に中学校生活についてのワークショップを実施した。これまでは教職員主体の情報交換などの連携に留まっていたが、児童生徒主体の交流という試みは小中連携の新しい形として提案することができた。</p> <p>●児童生徒主体の交流事業について開発を続けるとともに、9年間（12年間）を通して育てたい児童生徒像を共有しながらいろいろな連携の在り方を模索していく必要がある。また、連携活動を定着させたい一方で、相互の教育課程への影響、生徒の輸送に係る予算や手段の確保が課題である。</p>

3 全校での取組についての振り返り

▽教育活動を志教育の視点で捉え直していく活動を4月より行う。現職教育のワークショップを通して、「かかわる/もつめる/はたす」について具体的な目指す児童像をプロジェクトごとに話し合い、定期的に児童の姿を振り返る場を設定した。教職員間の交流の場を意図的に設定し、「身に付けさせたい力」についてビジョンを共有しながら、取組を進めることができた。

▽校庭を彩る「釜小ガーデン」への植栽活動は今年度より特に力を入れている取組である。全校児童が分担し、地域や企業のボランティアの方々と一緒に球根や花の苗を植えていた。多様な関わりの場を大切にしながら、花壇の植栽活動を通して児童の思いやりの心を育てたいと考える。

▽生活科における「まち探検」や公共施設への見学、社会科や総合的な学習の時間における工場見学や体験学習から得た知識を、私たちが生活する社会や職業と関連させながら学習を進めている。

▽上学年の児童は、児童会活動やあいさつ運動、下学年の児童のお世話、学校行事の準備作業や地域イベントへの参加などを通して、自分の役割を果たす場を意図的に設定するようにした。自分の役割を意識して、主体的に取り組もうとする児童の姿が以前に比べるとよく見られるようになった。

▽志教育の視点で今までの教育活動を見直すことによって、その理念は特別な授業実践や活動だけではなく、日常の学習活動の中で生かそうとすることこそ授業改善につながっていくことを教職員で共有している。関わりの中で生きていることを感じ取り、培ってきたコミュニケーション力を活用しながら、さらに「未来をつくる力」を備えた児童の育成を目指して日々の実践に取り組んでいきたいと考える。

i 未来をつくる力を育むとは

復興教育を土台とし、人との関わりの中でコミュニケーション力を身に付け、以下の5つの力を教育活動の中で意図的に育てていくことととらえた。

- ①確かな学力：基礎的・基本的な知識及び技能と思考力・判断力・表現力。
- ②命を守る技術：周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度。
- ③夢や希望：学習の成果や体験活動の成果を将来の夢や目標につなげようとする態度。
- ④思いやりの心：自分と関わる様々な人々に、温かな心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深め、進んで実現しようとする態度。
- ⑤基本的な生活習慣：社会の中で他者を認め合い、お互いを尊重し合って生活するための態度。安心して学習活動に取り組み、落ち着いた学校生活を送ることができる環境。

ii コミュニケーション力とは

国語科の目標にある伝え合う力に加え、表情やしぐさ等の非言語的な表現方法も使いながら、周囲の人々と信頼関係を築いていく力ととらえた。

石巻・釜小が防災学習紹介 中学、高校連携し授業



志教育
支援事業
高校生とハイミを育むから防災の備えを育む児童

子どもたちが主体的に将来を育む力を養う県教委の「志教育支援事業」で、推進校である石巻市青葉中学校の実践発表会が先日、同市釜小であった。県教委が教師ら280人が出席。「石巻の未来をつくる力」を育む復興教育の取り組みをテーマに釜小が取り組む防災学習を紹介した。

釜小は、推進校の青葉中学校や、校区に隣接する協力校の石巻西・東松島の両高校と連携して防災を授業に取り入れている。3年1組は、珍しいと

れる高校生と連携した授業を披露。石巻西高防災委員12人を進行役に、豊やカーテン、ネクタイなど身の回り品が描かれたカードを使い、ゲーム形式で防災を考えさせた。

児童は非常持ち出し袋に何を入れればよいかを考えた。紙芝居だけが売った人の応急処置に役立つ身の回り品を選んだりした。高学年は「どう活用すれば、命を守ることにつながるか知恵を絞ろう」などトランプ作り、6年生は青葉中学生会執行部との学級活動などの授業を行った。

青葉中学校区は2015年度と16年度に事業推進地区の指定を受けた。東日本大震災で甚大な被害があった地区で、復興教育を主題に掲げた。